事業所名　　訪問日

地域密着型サービス評価の自己評価票

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	暮らしに密着した意味ある外出を勧め、地域住民とのふれあいが出来るよう積極的に行っている。また家族との情報交換を基に、入居者にとって必要でQOL向上に効果的な資源を現在い探っている。	○	私たちが支えられるだけでなく、入居者が生きがいを感じ、地域の暮らしに溶け込めるよう、『支え合う』関係を目指したい。障害のある人の生活援助（独居宅を訪問し安否確認・庭の草取りなど）
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議時には理念に触れ、皆で確認し合うようにしている。		和水屋の状況・地域の状況などにより、より具体的なケア理念を職員主体（BS法）で作っていくことを計画している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居申請前の相談時、入居契約時、カンファレンス時、地域ケア会議時、運営推進会議時など入居者のQOL向上への必要性について相互理解を目指している。中学生と教育の一環として地域をテーマに取り組んでいる。		自治会（婦人部・青年部・老人会）とのつながりを増やしていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々、散歩や買い物などに出かけており、近所の方たちと挨拶を交わしたり話をしたりしている。また、近隣の方が気軽に様子を見に訪問してくださる。		更に継続
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入した上で、自治会や隣保の活動（環境整備・草かり・ゴミ拾いなど）に参加している。地域の運動会に参加したり、保育園児の訪問や中学生の職場体験などで地域との交流を深める。		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在検討中（独居老人宅の巡回・短時間のデイ（介護保険外）など）	○	高齢者の特性を活かし、学童保育的活動を行いたい。また地域にあるGH（24時間体制・看護師配置・認知症指導者の配置など）として地域に還元できるよう、介護保険サービス以外のボランティア的な活動を目指したい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価を受け、改善が可能な項目から実施している。過度な環境変化は混乱を招く恐れがあるため慎重に行っている。　（TVの位置・理念の共有等に取り組んできた）		外部評価の意義を職員で共有している。今後は、外部評価のときだけではなく、日頃から意識的に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に地域とのネットワークについての提案があるため、自治会活動への参加や認知症・GHの普及活動を少しずつおこなっている。		自治会活動への参加だけではなく、自治会からの関わりが得られるよう、各団体等と連絡を取り合うなど日常的に行いたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや広域連合と常に連絡を取り合っている。時には広域連合担当者に来ていただき、当事業所の悩みや方向性当について意見交換している。		更に継続
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	これまで、取り組む機会がなかった。		いざという時に対応できるように、左記の制度を学ぶ機会（研修会等）を持つ。入居者の状況を常に把握し、気軽に意見交換できる家族との関係・町担当者との関係を築いていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	年度当初又は採用時に虐待や身体拘束・個人情報についての誓約書を取ると共に、職員会議・ケアスタッフ会議のときに触れるようにしている。（尊厳・その人らしさ・自己決定に置き換えて）		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人を交え家族等に重要事項の説明を行っている。その際、日が経つにつれて変わる家族の希望・本人の希望を受けいられるよう、相談を基本に進める旨を確認しあっている。（重度化や看取りに対する意向、リスク管理など）		簡潔に分かりやすい書類により、不安感を和らげる工夫が必要
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や表情・態度から思いを読み取るようにしている。またそれらを記録している。また、本人の意向に添えるようケアスタッフ会議・ミーティング時にで改善策を検討し、連絡帳などで全職員に周知している。（ご意見箱・苦情受付体制の整備）		更に継続
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的ではないように思う。しかし、毎月の利用料請求時や面会時には状態・暮らしぶり・エピソードなど報告するようにしている。また心身の状態変化時には細かい概要説明や家族の意向を聞くようにしている。	○	入居者担当職員を設定しているので、異動や担当の挨拶を兼ねて、きめ細かなやり取りが行えるよう取り組みたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時等の会話の中から読み取るように注意している。		更に継続
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やケアワーカー会議にて、職員の意見・要望を聞き、話し合っている。年2回、管理者（運営者）は職員と個別面談を行い、職員の思いや事業所の運営方針などのやり取りを行うようにしている。		更に継続
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者が自分のペースに合わせた自由な暮らしが出来るよう、入居者本位のシフトとしている。（夜間2人勤務体制・・・緊急時の対応・夜間の事故防止・家庭的な暮らしの提供のためなど）		更に継続
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職はやむを得ない場合がある（入居者本位の方針について来れないなど）。しかし業績が賃金に反映されるようなシステムを作って行っている。職員が代わった場合は、入居者への紹介はもちろん、逆に、入居者から仕事内容等を教えてもらい自信や満足を得られるよう一石二鳥の考えで配慮している。		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の実施の際には、ケアスタッフ会議で復命（報告会）を行っている。仕事上でのでの勉強の機会は、認知症介護指導者を配置しているためスーパーバイズや職員間の意見交換の場を勧めている。		更に継続
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修等での実習事業所として協力している。また隠岐の老施協のGH部門に加入し、交流できるばを設けた。		更に継続
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室がないため、できるだけ休憩を実感できるよう外出や勤務者同士が声を掛け合い、一人になれる時間が取れるよう連携している。	○	休憩場所や順番性の休憩スタイルの検討
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員と個別面談を行い、業績が賃金に反映される説明をすると共に、個別目標設定とその達成度・取り組み内容を把握するよう努めている。	○	事業の拡大や効率性を考慮したシフトなどにより、職員処遇の向上を目指したい。人事考課的取り組みの検討。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問により相談したり、入居前に見学してもらったり、お試しデイ利用したりなど、環境に馴染むきっかけづくりをしている。		更に継続
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族のこれまでの苦労や経緯を聴き、共感からスタートしている。利用料等の説明と共に支払い金額を抑えるための対策や支払い方法・面会時間・外泊など希望に添えるように一緒に考えるなどしている。		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の状態、心身機能の状態、家庭の経済状況、家族の状況などの把握に努め、ケアマネージャーの他に、各サービスの担当者や包括支援センターと連絡を取り合っている。	○	インフォーマルサービスの発掘
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前見学、デイ的（日帰り）利用、お試し入居、入居前の行事への参加など家族と相談しながら行っている。		更に継続
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個人の特性やその時の感情の把握に努め、その方が生きがいを感じられるよう、特技や今までの仕事、人の役に立つ意味ある活動（干し柿作りの伝授・おはぎ作りなど）を行う場面を意図的に作っている。	○	更に継続
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日頃の出来事や気づいたことを家族と共有（面会時・請求時など）し、時には家族の力を借りれるよう、本人と家族のつながりを継続又は発展できるように心がけている。	○	入居者が家族側へ出向いて触れ合う取り組み
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	体調を見ながら、外出・外泊・一時帰宅の相談があった場合は、積極的に勧めている。疎遠にならないように意図的に来所してもらい当事者間の交流を行っている。		更に継続
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人宅や親戚宅にフラッと立ち寄ったり、お互い行き来したり、電話や手紙のやり取りも勧めている。		更に継続
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎朝の巡回やおやつ・食事時に、表情や他者の批判の言葉がないかに注目している。聞かれた際には傾聴し、その思いの原因を探るようにしている。	○	個別性にこだわらず、集団で行える社会的活動の実施

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族に対して、退居後の様子を伺ったり、入居者と共に直接本人と逢い触れ合う機会を持っている。		更に継続
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、無意識に出る言葉や表情で確認するようにしている。また、家族からの情報を基にその方の希望を推測し検討している。		更に継続
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメント時に聞き出すようにしている。また日常会話の中からヒントを得ようと努めている。		更に継続
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	待つ介護に心がけている。手を出す前に本人のやる気を優先し、出来ない場合は出来そうなことをさりげなく行っている。出来ること・出来ないことの把握のために入居者に担当をつけている。		更に継続
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人の意向・家族の要望などを基本に、また医師・ケアマネなどの助言を参考に、ケアワーカー会議の中で個々に応じた計画を立てている。アセスメントシート（生活記録）も独自のものとし、計画作成に役立てている。	○	更に継続（気づきを尊重し合う職場内環境）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月に1回見直しをしている。また入院や心身状態に変化があった場合には、家族や医師・ケアマネ等と情報交換し、随時計画内容の変更を行っている。		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出来事に偏らず、その裏にある感情や希望・思いを読み取り、記録できるよう、独自の記録様式を用いている。		更に継続
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出身地域の祭りや冠婚葬祭など突発的な外出・外泊などの個別な要望に応じている。また面会時間や外出に対する門限等は設けず本人・家族の意向に合わせている。		更に継続
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特に徘徊や散歩中の事故防止対策として、日頃から警察と情報交換している。また地域の課題発掘のため、中学生と共同で地域資源との関わりについて研究的取り組みをしている。	○	更に継続
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者にとって馴染みの人が集うデイサービスに出かけたり、その人たちのデイ利用の日の情報提供を受けたりなど関わっている。		更に継続
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議や地域ケア会議で事業所の活動報告やケア内容を共有している。		更に継続
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	服薬に神経質な利用者や自宅の時の主治医と替わらざるを得ない状況での不安に対して、職員が付き添ったり、意図的に往診を依頼したり、過去の経過の情報交換、本人の衣料に対する意向を医療機関と共有している。		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	受診の際、精神科医師と相談している。本人の状態を生活記録や日常の様子を医師に伝え、本人の自尊心に関わる内容は、職員と医師と情報交換するようにしている。服薬変更時には、定期受診の間隔を短くするなどスムーズ・安全な処方になるよう努めている。		更に継続
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所で看護師を配置しており、常に状態把握し、すぐに対応できるようにしている。看護師が不在の場合のために、入居前からの認知症症状の情報交換や正確・現在の治療・看護に至った経緯など協力医療機関の看護師と共有するようにしている。		更に継続
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、3ヶ月以内であれば退院後再入居できるなど、制限を緩和している。また、随時情報収集し、介護用品や協力医療機関との薬の在庫や往診、その後のフォローなど受け入れ態勢を整えられるよう連携している。		更に継続
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や本人の意向に沿った対応を基本としている。入居時に医療連携体制に関する説明と希望調査を行い、状況が変わったときに協議できるよう関係を継続し築いている。これまでケースはない。	○	本人・家族の意向を基に、医師や職員それぞれが、満足し納得のいく対応が出来るよう日頃から意識の共有を図りたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	新規に職員が採用されたこともあり、現在は、入居者それぞれの長期的な見通し・方針を共有している段階である。今後の準備として、看護師の配置や夜間勤務職員2名体制をとるなど緊急時の備えは行っている。	○	今後は更に深く個別の心身状況や家族同士の考え方の相違などに備え、まずは当事者同士の意識の共有を行う。事業所ではその際の知識や介護技術などスキルアップを図りたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には見学してもらったり、お試し入居をするなど行い、入居の際には馴染みのある家具や寝具その他日用品を自由に持ち込めるよう配慮している。また暮らしの継続性が保たれるよう、生活史の把握や性格など情報収集している。		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	行動障害で表される語句は極力用いず、個人の記録関係は、目に付きにくい場所に保管している。また声かけの際には、その方の障害や出来ないことに対する内容については、耳元でその方にしか聞こえないようにしたり、排泄介助などはさりげなく行っている。採用時には職員に誓約書をもらっている。		更に継続
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話やコミュニケーションの中で個々にあわせた内容としたり、開かれた質問をし、その方の言葉や態度などで思いが表されるよう心がけている。またその際は、その感情や思いを受容するようにしている。		更に継続
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員会議などで入居者本位を基本とした生活習慣を作ろうと話し合っている。業務の途中でも入居者からのサインがあればその時に対応したり、散歩や外出、保育園交流などコミュニケーションの中で感じ取った活動を行っている。	○	自由と尊厳が機能低下や認知症進行にならないように、声かけや雰囲気・家族の力を借りて、機能維持・生活の質の向上に向けて検討したい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望を読み取ったり、家族と連携し本人が望むライフスタイルを模索したり努めている。理美容については、本人の希望に添えるよう、好きな服を着たり、馴染みの店に行ったり、要望があれば事業所で整髪するなどしている。		更に継続
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を除く、盛り付け、配膳、下膳、皿洗いなど個人の能力に応じて行っている。時には味付けの確認や煮付け方など見てもらったり、職員と同じテーブルを囲み和気あいあいと食事している。		更に継続
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	その方の好みを把握するため現在アセスメントしている。食事時にはしょうゆやソースの好みなど好みを優先している。何かの催し物（地域の祭り・正月・その他祝い事）の際には、酒・ビールなど希望に応じている。	○	食に関することだけでなく、その他の活動を発掘できるよう関わりを増やしたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ベッドや居室を離れた排泄を行っている。失禁する方に対しての後始末は自尊心を傷つけないようさりげなく行い配慮している。	○	オムツ外し（行き当たりばったりによる後始末ではなく、パターンや排泄能力の向上のための意識改革を目指す）
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望を優先している。夜間に入浴できるよう職員体制を整えている。中の良い方同士は入ったり、拒否される方には、入浴時間の再検討や動機付けによる声かけ法を行っている。また、バスクリンなど家庭的な雰囲気を演出するようにしている。		入浴日という概念を捨て、いつでも希望する時などに対応できるようにしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けないときには、本人の好む温かい飲み物を飲みながら寄り添ったり、不眠の方には、朝寝坊できるよう融通を聞かせている。個々のきのうに	○	日中の臥床（ベッドで横になる）時間が長いため、本人が意欲的に活動できる取り組みを、更に検討したい。
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮できるよう、できそうな仕事・やりたい活動を頼み、暮らしの中で役割を持てるよう努めている。また、その際の感謝の言葉を忘れないよう心がけている。	○	更に継続（アセスメントを徹底し、可能性を見つけ出す）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することによる安心感のため、少額であるが所持できるよう家族と連携している。お菓子や自分の日常必要なものが買えるよう支援をしている。中には、関与しないケースもある。		更に継続
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調により、散歩や買い物、ドライブなど毎日のように実施している。また、その際に散歩コースにある近隣宅に気軽に立ち寄れるよう関係作りをしている。	○	イベント的な散歩やドライブのみならず、暮らしに密着した意味ある外出（夕飯の買い物・郵便物出し・ゴミ捨て・回覧板回し・墓参りなど）を取り入れていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常会話の中から、本人が口にする仏さん参りや祭り、地区の催し物などに積極的に参加している。また、急な外泊も希望に沿って行っている。		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙など自由にしてもらっている。プライバシーに配慮し、居室で電話をしたりも行っている。できない入居者に対しては、年賀状・暑中見舞いの他、電話で声を聞いてもらえるよう日常会話での家族に対する意向から行えるように取り組んでいる。		更に継続
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間等を設定せず、自由に来所・電話等できるようにしている。また、何気ない入居者の様子をお茶を飲みながら話をしている。		更に継続
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全く行わない方針である。		更に継続
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤1名の時は夜間のみ施錠していたが、現在は、2名体制のためオープンにしている。		更に継続
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングで入居者と触れ合いながら記録をしたりしている。夜間については、警備員と介護員が連携しながら定期的に巡回（内外）したり、動きがある場合に備え常に待機している。		更に継続
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	共有空間については、一般的な雰囲気を目指し、馴染みのある違和感のない環境づくりに取り組んでいる。個別の空間については、家族と連携し、家庭環境に近い空間を目指している。したがって、危険なものを取り除く考えではなく、その人に合ったものをたくさん置くという方針である。		更に継続
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どの時間においても複数の職員を配置しており、体制をとっている。また、インシデントレポート（ひやりハット）を活用し、緊急時にはミーティング時に、そうでない場合などは、ケアワーカー会議で対策や書道体制の勉強を行っている。		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	インシデントの具体的なケースを用い、対応や処置方法など勉強会的取り組みを行っている。		更に継続
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議や自治会との関わりを持ち、入居者の心身レベルなど共有するよう努めている。マニュアルを作成している。		更に継続
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	熱発や腰痛など、一時的に機能低下・筋力低下など引き起こすケースについて家族に説明している。その際、本人の尊厳・自由が損なわれないように対応している。		更に継続
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや他覚所見から異常の早期発見に努めている。その際、入浴や外出などの自粛など申し送り時に確認しあっている。		更に継続
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の記録に処方内容を掲示しており、確認しやすくしている。また、看護師以外でも薬の仕分けをしたり、その効果について確認するようにしている。		更に継続
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	緩下剤のみに頼らず、繊維質（サツマイモなど）やヨーグルト・水分等を提供すると共に、散歩や運動・腹部マッサージなど行っている。	○	排便の有無とパターンとの把握
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自分で可能な人は確認を、援助が必要な人にはさりげなく声をかけ支援している。		できている人の確認

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食生活の習慣（嗜好・摂取時間・摂取量・そのた食事時の環境等）を継続してできるように対応している。		更に継続
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成している。洗面台には石鹸・ペーパータオル・消毒を設置し、出勤時に予防するようにしている。またテーブル・手すり・トイレの消毒などこまめに行っている。		意識の継続
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫を2台置き、長期保存可のもの不可なものを分けるなど、食材管理担当職員を決め行っている。定期的に冷蔵庫整理を行っている。調理前には職員・入居者に関わらず、手洗い・消毒を徹底している。		更に継続
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花やベンチを置き、玄関先でくつろげる雰囲気を作っている。また、庭には花壇や小さな畑を作り、生活観を持たせている。		更に継続
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や入居者の感情に働きかける置物など工夫している。またリビングでは、生活に密着した調理の音・匂い、洗濯機の音など家庭に近い環境を目指している。	○	更に継続
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペース的にかなり難しいが、廊下の一箇所に椅子を並べたり、コタツにして座ってゆっくり話せる場所や玄関のベンチで景色を眺めながら話ができる空間を設けている。		更に継続

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家からの家具・小物等の持込は入居前や入居後の本人の状態に応じて自由にしてもらっている。	○	更に継続（個性の発揮の場として検討する。）
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室は毎日掃除し、消臭剤の他に、換気（寒い日は本人が居室にいない時）や寝具の整理・食べ物の処分など状況を見て行っている。自然の風を取り入れられるよう、玄関・裏口・勝手口など網戸にしている。居室は訪室回数を増やし、部屋の気温や本人の発汗などの状況を見て調整している。		更に継続
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を考慮し、入居時の居室の場所を検討している（居室替えはしない方針）。段差を極力なくし（玄関等の出入り口・階段は除く）、手すりや介助にて行えるよう配慮している。		更に継続
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かる力を認めてあげ、自信が持てるように意図的に聴いたり、させたりしている（歌・家族の写真・近所の風景・散歩コースなど）。分からない場合には、ヒント的な言葉を掛けるなど、自信喪失につながらないよう注意している。		更に継続
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先で日向ぼっこできるよう、ベンチ・花を置いている。庭には畑や花壇を設け、鑑賞したり草取りをしたりできるようにしている。		庭の更なる有効活用（ベンチなどの設置）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

夜間勤務職員の２名体制の実施（緊急時対策・夜間ケアの充実・職員のストレス解消など）、地域とのふれあい（差し入れ・散歩時の声の掛け合いなど）